

関係人口の拡大・深化について

令和6年8月21日
知事政策局

富山県成長戦略の策定・ビジョン

富山県成長戦略を策定（令和4年2月）

成長戦略のビジョン

幸せ人口1000万

～ウェルビーイング先進地域、富山～

「幸せ人口1000万」

県民約100万人 + 関係人口1000万人

富山には、豊かな自然や水、おいしい食、安全な土地という『幸せの基盤』が揃っています。当たり前すぎて忘れてしまいがちですが、これは世界中の都市や地域を見ても、なかなか存在しない恵まれた環境です。

いつまでも「県内人口100万人」という考え方に縛られてはもったいない。そうではなく、幸せという大きな傘のもと「関係人口1000万人」を目指しましょう。

富山で暮らす人、仕事する人、よく訪れる人、生まれ育った人など愛着を持って関わるすべての人が、富山県の仲間です。

【成長戦略ビジョンより抜粋】



成長戦略のポイント【本県の関係人口】

令和4年富山県関係人口推計値：351万3,982人

- 全国アンケート調査を実施し、本県の関係人口を推計
- 調査結果を基に、関係人口の拡大・繋がりへの深化に向けた施策を検討

本県の関係人口の考え方（定義）

- 01 県外に在住し、
- 02 本県と関わる(行動する)者のうち、
- 03 強い関係性をもつ者…他の都道府県でも同様の選択肢がある中で

ボランティア等での地域貢献や、富山ブランドに惹かれて県産品を購入、SNS等により本県の情報発信している方 など

「あえて富山県」を選択する者で「直近1年間に1回以上の関係を有する者」

及び地縁・血縁者

成長戦略会議における検討状況について

【議論の切り口】

- ・ 成長戦略会議では、これまで、人口減少が進む中、関係人口の拡大により、成長戦略のビジョン「幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山～」の実現に向けた戦略を議論
- ・ 庁内に設置した「人口未来構想本部会議」で議論する定住人口減少緩和と併せて、成長戦略会議では、関係人口の拡大とこれにより人口減少社会に起因する課題をどのように解決するかを検討し、関係人口の拡大と定住人口減少緩和の好循環の創出を目指す。



検討スケジュール・方向性

第1回（6/7開催）

- ・ 関係人口の拡大に向けた考え方と戦略の検討の方向性を議論
→国内外から「人」を呼び込み、「関係人口」とするための「場面」「理由」と「属性」を整理

第2回（7/2開催）

- ・ 様々な「場面」で県外の人がその地域を選ぶ「理由」を深掘り
→「理由」を踏まえて、富山県を選んでもらうために、本県のポテンシャルのある領域を議論

第3回（7/30開催）

- ・ 第1回、第2回の議論を踏まえて、本県のポテンシャルを活かした「関係人口創出仮説モデル」を検討するとともに、具体的にどのように取り組むべきかを議論



- ・ 第4回（9/4予定） 成長戦略会議提言案を検討
- ・ 第5回（9月下旬予定） 成長戦略会議提言とりまとめ

第4回人口未来構想本部（8/21開催）
成長戦略会議（第1回～3回）での意見を共有

本部会議の
意見を反映

県として、提言を受けた対応について取りまとめ

(1) 第1回、第2回会議における意見

第1回、第2回会議においては、主に、大きく分けて以下の3つの観点についてご意見をいただいた。

1. 人間の一生において、大きな支出をする主な理由が **iヘルスケア、ii教育、iii家、iv老後**の4つであることも踏まえると、県外の人に富山県を選んでもらうための、関係人口の入り口としては、

①「くすりの富山」の伝統や先進的な医療体制、豊かな自然・食文化や「ウェルビーイング先進地域」を目指しているという、言わば「癒しの環境」が、「疲れた人」などを惹きつける**本県のポテンシャルとなりうる**こと

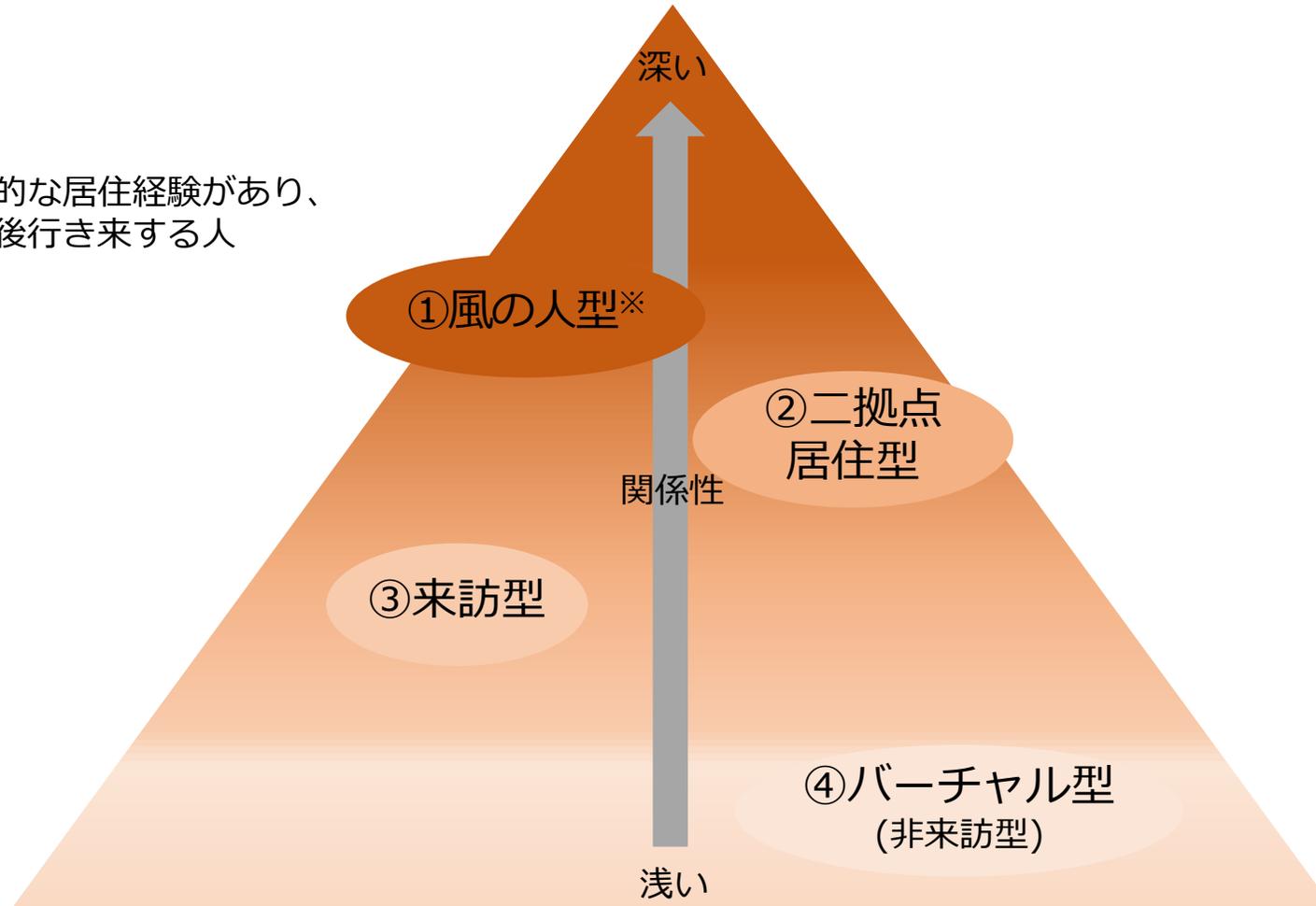
②暮らしやすさや働きやすさ、教育水準の高さという、言わば「子育て・教育環境」が、**子育て世代の方々を惹きつける本県のポテンシャルとなりうる**こと

2. また、関係人口の拡大にあたっては、③**県民一人ひとりが県外の人を呼び込み、関係を広げていくという視点も重要**であること

(参考) 関係人口の類型

関係人口は、①風の人型、②二拠点居住型、③来訪型、④バーチャル型（非来訪型）の4つの類型に大別される。

※風の人…一時的な居住経験があり、その後行き来する人



(2) 関係人口創出の仮説モデルの考え方

意見を踏まえて、「ターゲット・訴求内容・創出を目指す関係人口類型」について、以下の4パターンを「行動変容のための戦略仮説 (Theory of Change) モデル」として作成した。

1 富山県のポテンシャルを活かした関係人口の創出

- Aパターン：「癒しを求める三大都市圏のビジネスパーソンとその家族」をターゲットに、富山の多彩な食や、豊かな自然環境、リトリート施設を活用したヘルスツーリズムにより、「癒しの環境」を訴求し、「来訪型」「二拠点居住型」の関係人口を創出する。
- Bパターン：「富山県への転勤者やその家族」をターゲットに、転勤後に富山が第二の故郷となるように、「子育て・教育環境」を訴求し、「風の人型」関係人口を創出する。
- Cパターン：「受験競争など都会の子育て・教育環境に違和感を持つ都市部の保護者」をターゲットに、保育園留学やサマースクールなどの自然を活かした教育プログラムにより、「子育て・教育環境」を訴求し、「来訪型」「二拠点居住型」の関係人口を創出する。

2 【Dパターン】県民一人ひとりを起点とした関係人口の創出

また、県民一人ひとりの県外の方々とのつながりを通じた関係人口の創出をするため、「コミュニティに属している人」をターゲットに、「人・コトの魅力」を訴求し、「来訪型」の関係人口を創出する。

(3) 第3回会議における意見（主なもの）

第3回会議では、事務局が提示した上記A～Dパターンの「仮説モデル」等に対して、以下のご意見をいただきました。

- ・ **仮説モデルを実行するにあたっては、誰が主体となって取組みを進めるのかを、決めることが重要。**
- ・ A～Dパターンのほかに、転勤族や取引先、サプライヤー等との関係の創出という観点から、「**企業誘致**」をパターンとして追加してはどうか。
- ・ **Aパターンについては、社員の健康管理に意識の高い大都市圏の大企業に対して、BtoBで仕掛けていくことが重要。富山県の医療・検診体制を活かすべき。**
- ・ Cパターンについては、「受験競争などの都会の子育て教育環境に違和感を持つ都市部の保護者」というマーケットはあると思うが、**富山の教育の多様性をきちんと示せない**と、訴求は難しい。